

# B型バリケードの隙間対策の見える化

課題: 人通りの多い市街地などの現場において、歩行者がバリケードの小さな隙間でけがをした事例があった。

対策: バリケード間の小さな隙間を自社開発のパネル付き金具で埋めることで、事故防止に努めるとともに、パネルに安全メッセージを載せ、安全への意識啓発を図った。

**工事フェンスで3歳児が指切断**

花博記念公園鶴見緑地  
大阪府は14日、花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区、守口市）で同日午前11時半ごろ、母親と遊びに来ていた男児（3）が園内の工事現場を囲っていたフェンスで左手小指の第1関節から先を切断する重傷を負った、と発表した。

公園事務所によると、男児が遊んでいた場所の近くにあったフェンス（高さ1・8メートル）の枠と、鉄板の隙間（6センチ）付近に男児のものと思われる血液が付着していた。男児が隙間に指を入れたとみられるという。現場では、市の請負業者が、老朽化した遊具の撤去作業をしていた。

（川田博史）

事故のあった工事現場のフェンス＝守口市高瀬旧大枝の花博記念公園鶴見緑地、大阪市提供



現場周辺はチューブライトを主として、最近、犯罪防止等に効果があると言われている青色LED照明等を設置した。

横方向隙間はチューブライトを隙間に設置



縦型広報プレートには、「足元にご注意ください」「ご迷惑をかけております」をプラダン等で製作



一般的なBバリ隙間対策はガムテープである。


